



①掘立柱建物A

4面に<sup>ひさし</sup>廂がつく<sup>ほったてばしらたてもの</sup>掘立柱建物で、写真で人の立っているところが身舎と廂の四隅になります。東西方向の建物で、廂がつく形態から、27年度調査区内で中心的な建物と考えています。

②掘立柱建物B

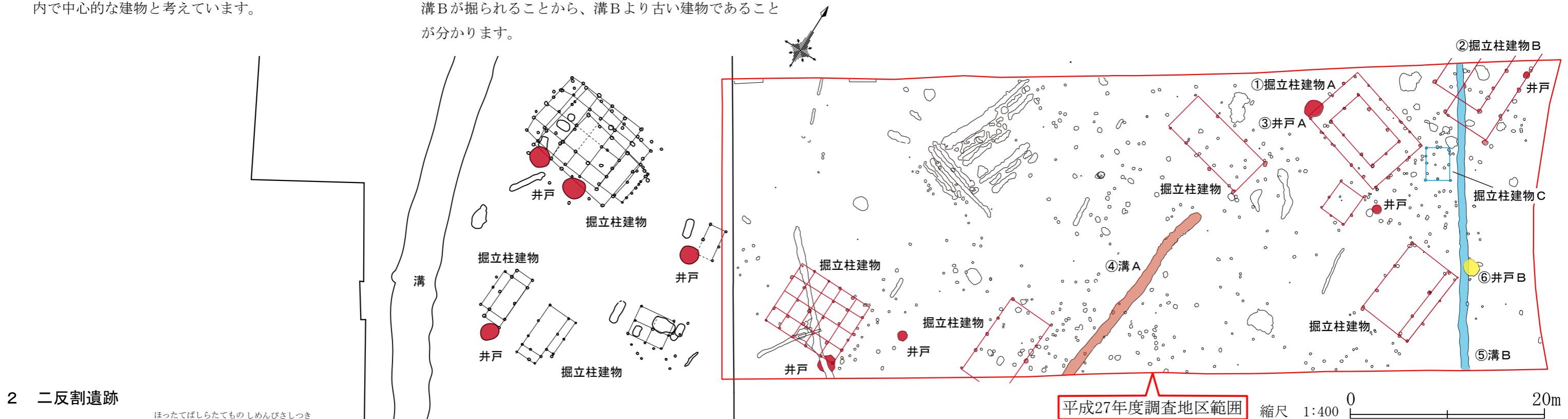
南北方向の建物です。柱穴は全体的に掘立柱建物Aより大きめです。2棟が重なっていることから、建て替えがあったのかもしれませんが。柱穴の1つが埋まった後に、溝Bが掘られることから、溝Bより古い建物であることが分かります。

③井戸A

直径約2.0mの井戸で、深さ1.2m以上で石が数個出土しました。埋め戻す時に投げ込まれたものかもしれません。

④溝A

南北方向の溝です。掘立柱建物Bと方向が同じで、建物Aは直交することから、関連性がうかがえます。



2 二反割遺跡

平成27年度調査では、<sup>ほったてばしらたてものしめんびさしつき</sup>掘立柱建物（四面廂付建物、<sup>かためんびさしつき</sup>片面廂付建物、<sup>がわばしら</sup>側柱建物）、井戸、溝などが見つかりました。主要な遺構は、調査区内北東側に形成された<sup>びこうち</sup>微高地に立地します。

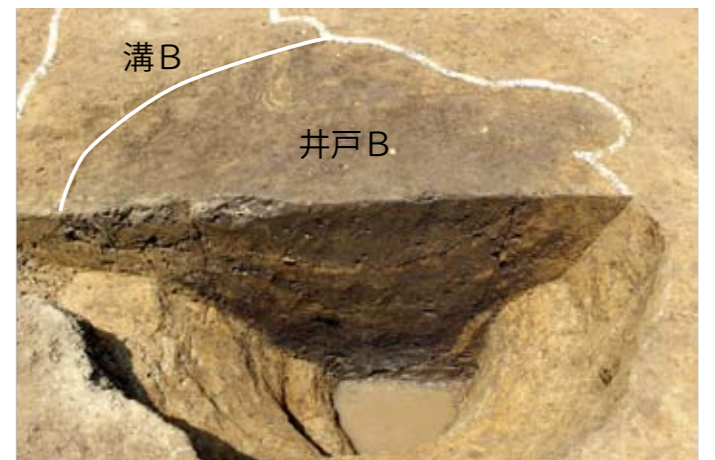
遺構の重複関係から、東西・南北方向を向く建物・溝と井戸からなる遺構群（赤色表記）→北西-南東方向を向く建物・溝からなる遺構群（青色表記）→それ以降の遺構（黄色表記）へと集落変遷が想定できます。

時期の詳細は検討中ですが、東西・南北方向を向く赤色表記の遺構群と平成23年度調査の建物の方向が同じことから、赤色表記の遺構群は中世（12世紀）の可能性を考えています。



⑤溝B

北西-南東方向を向く溝です。掘立柱建物Cと方向が一致することから、ほぼ同時期の遺構と考えられます。



⑥井戸B

溝Bが埋まってから掘られた素掘りの井戸で、27年度調査では一番新しい時期の遺構です。